

令和8年度 小樽市立張碓小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

前改善プランの定着目標について、国語科「配当漢字の読み書きの定着率を90%以上にする。」は、2学年が目標を達成した。算数科「学年の計算問題の定着率を90%以上にする。」は、4学年が目標を達成した。学習・生活習慣「家庭学習時間（学年×10分+10分）を達成する児童の割合を80%以上にする。」は、1学年が目標を達成した。また、「1日1時間以上スマホ・インターネットをする児童を50%以下にする。」は、4学年が、目標を達成した。

昨年度の全国学力・学習状況調査では、国語・算数・理科の3教科すべて全国平均を上回り、子どもを主語にした学びの実現へ向けた授業改善の取組の成果が確実に現れた。

標準学力調査では、3年生は国語・算数共に全国平均を上回った。5年生は国語・算数共に全国平均を下回った。

単元テストや確認テストでは点数が平均的に高い傾向にある。

児童アンケートから、家庭学習（学年×10分+10分）を上回っている児童の割合は、63%で、週末になるともっと低い状況である。また、1日1時間以上スマホ・インターネットをする児童の割合は54%であり、学年が上がるほどスクリーンタイムが多い。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

| 学年 | 定着目標 |
|----|--------------------------|
| 1年 | ・配当漢字の読み書きの定着率を90%以上にする。 |
| 2年 | ・配当漢字の読み書きの定着率を90%以上にする。 |
| 3年 | ・配当漢字の読み書きの定着率を90%以上にする。 |
| 4年 | ・配当漢字の読み書きの定着率を90%以上にする。 |
| 5年 | ・配当漢字の読み書きの定着率を90%以上にする。 |
| 6年 | ・配当漢字の読み書きの定着率を90%以上にする。 |

<算数科>

| 学年 | 定着目標 |
|----|------------------------|
| 1年 | ・学年の計算問題の定着率を85%以上にする。 |
| 2年 | ・学年の計算問題の定着率を85%以上にする。 |
| 3年 | ・学年の計算問題の定着率を85%以上にする。 |
| 4年 | ・学年の計算問題の定着率を85%以上にする。 |
| 5年 | ・学年の計算問題の定着率を85%以上にする。 |
| 6年 | ・学年の計算問題の定着率を85%以上にする。 |

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

| 学年 | 定着目標 |
|----|--|
| 1年 | |
| 2年 | ・家庭学習時間「学年×10分+10分」を達成する児童の割合を80%以上にする。 |
| 3年 | |
| 4年 | ・スマホ・インターネットを利用する時間が1日1時間以内の児童を50%以上にする。 |
| 5年 | |
| 6年 | |

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①朝学習（算数・国語タイム、「百マス作文」）・朝読書の充実
- ②家庭学習と授業の連携、宿題（デジタルドリル含む）の工夫
- ③週末課題（一人一台端末の利活用含む）の活用・充実

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①子どもを主語にした学びの実現へ向けた授業改善の推進
 - 明確なめあて・課題・見通しを示した授業づくりを進める。
- ②教材研究や自ら学ぶ学習環境づくりを図り、主体的な活動場を多く設定することにより、学びに向かう力・人間性等を養う。
 - 学習への関心・意欲を高める資料提示や活動の工夫。
 - 主体的に活動する場を意図的・計画的に設定する。
- ③コミュニケーション能力の育成を図る
 - ICTを効果的に活用した授業づくりを進めるとともに、自

分の思いや考えを自分なりにまとめ、他者に伝える活動を繰り返す。

- 朝読書や図書ボランティアによる読み聞かせの機会等を活用し、児童の主体的、意欲的な読書活動の充実を図る。また、図書司書と連携し、本を手に取りやすい環境整備に努める。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①「家庭学習の手引き」を活用し「学年×10分+10分」以上の家庭学習の定着を図る。また、休日の家庭学習時間を確保するよう働きかける。
- ②望ましい生活習慣の定着へ向けた指導と働きかけを工夫し、一日の時間の使い方について考えさせるなど自己指導能力の育成に努める。
- ③朝読書のための時間や蔵書（スクールライブラリ便等含む）を確保した上で取組を進め、全校で読書習慣向上へ向けた働きかけを行う。

4 実施計画

| 年月日 | 計画内容 |
|-----------|--|
| R8年 4月 | <ul style="list-style-type: none"> ◇「家庭学習の手引き」の周知と啓発 ◇チャレンジテストの実施 ◇全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ◇朝学習（算数タイム・国語タイム・朝読書）の実施 ◇子どもを主語にした授業改善の取組（年間を通して） <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの効果的な活用方法の共有 ・繰り返し丁寧に取り組むことで確かな定着 ・インプット・アウトプットの活動を重視 ・明確なめあて・課題・見通しを示した授業づくり ・家庭学習、デジタルドリル（土・日）の推進 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○R8全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施（第3学年・第5学年） |
| 6月 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ◇生活リズムチェックシートの実施、集計、分析 ◇チャレンジテスト（1学期末問題）の実施分析、改善策の提示 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○標準学力調査結果分析 ◇標準学力調査の結果分析、改善策の提示 |
| 8月 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ○R8全国学力・学習状況調査結果分析 |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> ○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善 |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ◇改善プランの見直し ◇校内研究授業の実施 |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ◇生活リズムチェックシートの実施、集計、分析 ◇2学期末チャレンジテストの実施 |
| R9年 | |
| 1月 | <ul style="list-style-type: none"> ◇生活リズムチェックシートの実施、集計、分析 ○新学力向上改善プランの作成 |
| 2月 | <ul style="list-style-type: none"> ◇学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 |
| 3月 | <ul style="list-style-type: none"> ◇これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施 |

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①職員自己評価
- ②児童アンケート・職員自己評価
- ③職員自己評価・児童アンケート

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①全国学力・学習状況等調査、職員自己評価、単元テスト
- ②全国学力・学習状況等調査、職員自己評価、単元テスト
- ③職員自己評価

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①保護者・児童アンケート、職員自己評価
- ②生活リズムチェックシート
- ③職員自己評価